

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176500872		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家清河寺		
所在地	埼玉県さいたま市西区清河寺1088-6		
自己評価作成日	平成 27年 10 月 14 日	評価結果市町村受理日	平成28年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2015_025_kani=true&Jigvovocd=1176504437-00&PrefCd=11&VersionCd=025
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成 28年 2月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、個々の個性を引き出せる様々なレクリエーションを日々実施しております。又個別の運動や体操を取り入れ自立した生活を続けていける様支援しております。日々の業務に追われる事もありますが、入居者様とのコミュニケーションを大切にし会話を多く持つ様努めております。ご家族様が面会に来られた歳には、近況を報告しご家族様との信頼関係を築ける様努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングの前には、利用者と職員で作った自由に出入り出来る庭が有る。庭を整備したことにより外に出る方が増えた。庭で過ごすことが日課にもなって、居心地良く過ごせる。庭の一角には畑のスペースもあり、夏はトマト、キュウリ、ナスを、冬には大根、白菜等を育て、漬物にしたりそのままおやつにして食されている。3つのユニットは、それぞれの利用者の特性を活かした取り組みをしている。1階は音楽や読書、庭に出ることも多い。2階はぬり絵、読書、パズルなど趣味に没頭する方が多く、3階は編み物やDVD観賞のほか、自転車漕ぎと踏み台昇降の運動を取り入れている。医師、看護師から浮腫みが取れた報告もあり、無理なく楽しみながら効果も得ている。家族の来所は多く、各ユニットを回って利用者と一緒にお茶を立てるなどの協力もあり、良好な関係が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔で溢れるアットホームな環境を提供する』を事業所理念に挙げ、入居者様とのコミュニケーションを大切に毎日笑顔を引き出せる様努めています。	本社と事業所の理念を事務所内に掲示し、職員が日々確認出来るようにしている。管理者は、年に一度、年間のユニット毎の計画を立てる時に取り上げ、再確認して職員と共有している。	事業所理念を深める方法を検討する為に、改めて皆で話し合う時間を持つことで、職員の意識が高まり、理念が浸透しサービスに繋がることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はありませんが、散歩の際にご挨拶を交わしたりお祭りなどのイベントの際には、ご近所の方をお招きしております。又自治会に加入している為神輿の立ち寄りがあります。	事業所の行事流しそうめんや七夕の時には、隣家から竹をいただいている。近所の方々の参加もあり、ゲームは大変盛り上がる。玄関前の掃き掃除や散歩時に顔見知りも出来、挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方などホームの行事にお呼びし、認知症の理解、また支援についてお話しさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回地域包括やご家族様参加の下定期的に開催している。ご家族様同士、談話する時間を設け支援への意見等サービスに反映させている。	会議では、行事の報告や事業所内の様子などを伝えている。会議の後半に、管理者が席を外す時間を設けることで、家族同士で話すことができ、普段気付かない事や色々な意見が出るようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の訪問、相談、報告を行っている。又運営推進会議への参加も働きかけている。	市との連携はスーパーバイザーが行っている。管理者は生活保護の相談や報告、その他身近な事務的なやりとりを行っている。制度変更時の説明会には参加し、市との連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っていないか毎月の会議で話しを行い、職員全員が正しく理解できる様取り組んでいる。	会議の後、身体拘束廃止委員会を行い、職員が作った資料を元に勉強をしている。身体拘束をしないケアを実施していることに加え、利用者が拘束されず自由に歩くことによるリスクも家族に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が無い様職員全員が、正しいケアが行っているか確認し意見交換を行っている。フロア会議では、最近の虐待ニュース等報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に自己啓発として日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修に参加している職員もいる。その際ユニット会議等で報告する事で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な時間を設け説明し、疑問も伺い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会でご家族様の意見や普段面会時に頂いた意見を月1回職場会議にて報告している。参加出来なかった職員にも会議録にて全職員が周知する様にしている。会社としても苦情窓口を持っている。意見箱もホームの入口に設置している。	運営推進会議や面会の時に聞いている。家族と信頼関係ができ、様々な意見が出ている。人員配置等運営に関する事は、本社に相談し、検討して本社職員から説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職場会議を実施している。又ユニット会議も月1回実施し職員同士の意見交換を行っている。	管理者は、出勤時には各ユニットを回って声をかけており、職員は意見があれば何でも話している。相談、問題解決のしゅみが出来ている。10年勤続表彰の方も4名いる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が得意分野で自分を活かし活躍できる環境を作っている。又人事評価を行い職員の評価を適正に行える様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示板を利用し様々な研修を掲示している。個別にレベルアップシートを作成し月1回提出し自身の得意不得意を明確にし、毎月の目標を立てている。月1回のフロア会議では、身体介護の実践も行いトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の研修を通し名刺交換をするなどネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日入居者様とコミュニケーションを多くとる事で信頼関係を築いているので、不安・要望がある際には早々に解決できる様心掛けている。又ユニット会議で担当者が責任を持って問題点等提案しカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時から時間を掛けてご家族様との関係作りに力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に実調調査を行い、暫定プランを作成し職員同士ケアの統一を図り、的確なサービスが提供できる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がご本人様との生活を一緒になり考え家事等役割意識を持って頂きやりがいを見つけて頂く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活等ご家族様に面会時や電話でお伝えしご家族様も一緒になり考え、ケアの方向性を見出しご本人様に良い支援方法を考え提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に自由に来れる様配慮しご家族様同様丁寧な対応に努め支援している。	家族や近所の方、元の会社の友人が来て、居室やリビングで過ごす。「自宅を観てみたい」との声に応え、職員と買い物に帰りに自宅付近に行ってみたり、家族と荒川を散歩することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席に配慮し、入居者様同士会話を持てる様に配慮している。又会話の少ない方は、職員が言葉の掛け渡しをし孤立しない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後転居となった場所まで出向き面会し、必要に応じ相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日コミュニケーションを多くとる事で表情や、行動からご本人様の希望、意向を把握する様努めている。困難な場合は、カンファレンスを実施しケアの方向性を見出している。	職員は、必ず担当ユニットの利用者全員と話すようにしている。まずは、ケアプラン作成時に把握し、あとは日頃のお喋り等コミュニケーションや職員同士の情報交換から把握して検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の状況等実調調査で得た情報やご本人様、ご家族様から直接得た情報を職員全員が周知し、これまでと変わらない生活が送れる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、生活記録、特記事項、連絡ノート等記録を用いて入居者様の把握に努めている。ささいな変化も記載し職員全員が情報共有できる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からサービスの評価を頂き、個々にカンファレンスを行う時間を設け意見、要望を反映した介護計画書を作成している。	基本見直し期間は3カ月。変化が有ればその都度変更している。入居時のアセスメントは家族、本人、前施設の意見を参考にして行い、プランを作成する。散歩や外気浴をプランの中に入れ、積極的に支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、生活記録、特記事項、連絡ノート、サービス実施表などの記録を用いて入居者様の把握に努めカンファレンスを行う事で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない様職員1人1人、意見を上げ話し合う事で柔軟にサービスに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園や薬局等地域資源を使用し買い物や散歩など外出する機会を増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医、医療連携看護師、歯科医、歯科衛生士、薬剤師等協力体制はできている。必要に応じて関わる医療機関全てに情報を提供し支援するシステムができている。入居時かかりつけ医が他にある場合は継続受診できる様支援している。	基本希望するかかりつけ医は家族対応で行っている。緊急時は職員が対応する。精神科受診の際は家族に手紙を持って行ってもらい、適切に受診出来るように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回医療連携看護師がきている為個々に看てもらっている。又ノートに相談や指示内容を記載し記録を残している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医より診療情報提供書を出してもらい情報交換を行っている。協力機関の病院のSWとも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し医療が必要になった場合には、会社内の特定施設への転居を勧めている。又医療が必要ではない方の終末期はどの様にしていきたいかご家族様に要望を伺っている。	契約時と医療が必要になった時に、事業所が出来る事、出来ないことを説明している。医師、事業所、家族と相談の上、本人に最良の方法を検討し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり職員は熟知し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しています。内1回は消防立ち合いにて夜間想定避難訓練を実施し緊急時職員が敏速に動ける様努めている。	年2回避難訓練を実施している。夜間は職員一人で、エレベーターホールに誘導するよう指導を受け、日中の誘導の訓練も行っている。自宅が事業所から近い順の連絡網も作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴介助や排泄介助時は、羞恥心に配慮しプライバシーを保護している。1人1人会話を持つ時間を設け傾聴し人格を尊重している。	個人情報、パソコンでパスワードにより管理している。居室に入る際は必ず声かけし、下着が濡れた際には恥をかかないよう小声で居室に誘って更衣をしている。ドアの小窓は希望により中が見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を挙げ自己決定できる環境作りをしている。コミュニケーションを多く取り信頼関係を築き思いや希望を表わせる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が1人1人のペースを大切に出来る様何かを行う際には、必ず入居者様にどうするか伺い実施している。庭へは自由に出入りできるようにし解放された環境を提供できる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容にてご自分で髪型を決めて頂ける様配慮している。その際希望によりパーマや染髪を希望によりされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人お盆にのせ食事を提供している。食器を持ちづらい方には取っ手のついた食器にする等自立した食事ができる様配慮している。下膳や食器拭き、テーブル拭き等手伝って頂いている。	専門職員が作っており、季節の食材を使い、栄養バランスが考えられている。食器拭きやテーブル拭きは利用者と職員で行われる。行事食は寿司、ハンバーガーが好評である。月に一度手作りおやつも実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は、専門の栄養士により献立は決まっているが、嚥下低下している方は、食事形態を考慮し提供し食事摂取量が確保できる様にしている。水分摂取量も記録し脱水にならない様補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に口腔ケアを行っている。歯科医、歯科衛生士にアドバイスをもらい実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方も出来る事はご自分で行って頂き、全介助にならない様努めている。又ポータブルトイレからトイレでの排泄への切り替え等カンファレンスで検討し自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を使つてのトイレ誘導を実施している。立位が取れる利用者はトイレでの排泄を基本とし、個々の困難な因子は会議や連絡ノートで共有している。夜間も個々に合わせた誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や適度な運動、水分補給を行う事で蠕動運動を活性化できる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入浴日を特に決めていなく、ご本人様に合わせ入浴して頂いている。	週2回以上基本午後から入浴している。好みのシャンプーや石鹸を持ち込まれる方もあり、一人ひとりゆつくりと個々に合った入浴が出来る。季節の柚子湯、入浴剤等楽しむ事も出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	同じ時間帯に入眠を促さず、共有スペースでテレビや談話し過ごす方、自室で過ごす方と1人1人のペースに合わせた時間を過ごして頂いている。快適な環境を提供できる様室温にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を用いて内服薬の確認、何日まで処方されているか確認出来る様にしている。又新しく追加された薬については連絡ノートに記載し情報共有している。又減薬についてもDrに相談し調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に力を活かせる様掃除、洗濯畳み、食器拭き等役割を持って頂いている。歌、散歩、体操等行い気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日時は決めず天気の良い日には、外出がお好きな方はお声掛けし散歩に出かけています。庭へは自由に出入り出来るように日光浴を楽しまれています。ご家族様に協力して頂き定期通院時外食される方もいます。	リビングの前の庭に畑を作り、外に出る人が増えた。寒い日も外に出てひなたぼっこをしながら一人の時間を楽しまれる方もいる。散歩に出たり、温かくなつたら駐車場でのお茶のみも行っている。要望が有れば個別で出掛ける事も出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は、ホームで預らせて頂いていますが、小銭は持たれている方もおり、自販機で飲料を購入する方もいる。又希望により日常生活品等購入でお金を使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望がある場合にはご家族様への電話や手紙は自由に出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音、匂い等無くし安心して過ごせる様整理整頓を心掛け掃除チェック表を作り環境を整えている。季節毎にホール内の飾り付けを変え外出する機会が少ない方にも季節を感じて頂ける様努めている。	洗面台等所々に、季節を感じて貰うため花を飾っている。テーブルの配置は、仲の良さを考慮して快適に過ごせる様配慮している。午後からは、懐メロ、クラシック等いろいろな音楽を流し、各々の時間を過ごせる様な雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の居室の行き来に制限していない為気の合った入居者様同士居室で談話されている事もあります。又共有空間で1人になれる様廊下の離れた場所にソファを設置しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のご自分のお好きな写真や観葉植物等を置いて頂くなど個々の好みに合わせ居心地の良い環境になる様ご家族様、ご本人様と相談している。	布団はレンタルで着替えのみで入居が可能となっているが、危険物、高価な物以外は、何でも持ち込んで頂いている。趣味のパズルを壁に貼ったり、編み棒、辞書等持ち込まれ、居室で好きなように過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活導線に物を置かない様安全に配慮しトイレの場所がわからない方には壁にトイレの方向を示した紙を貼り自立した生活が送れる様工夫している。		